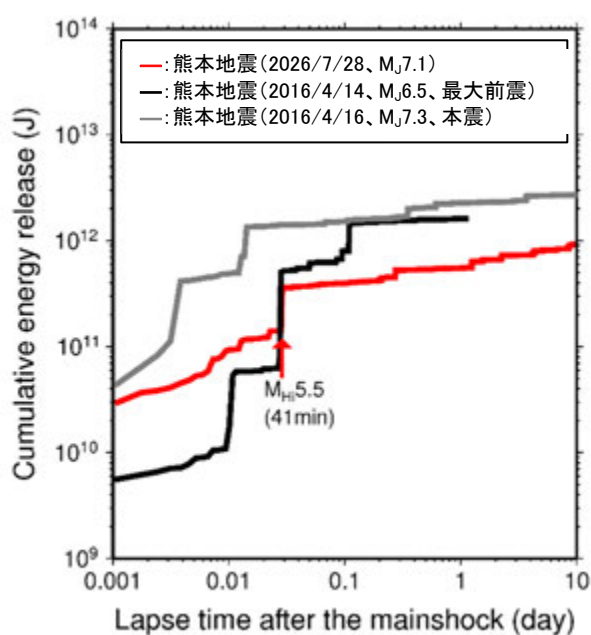


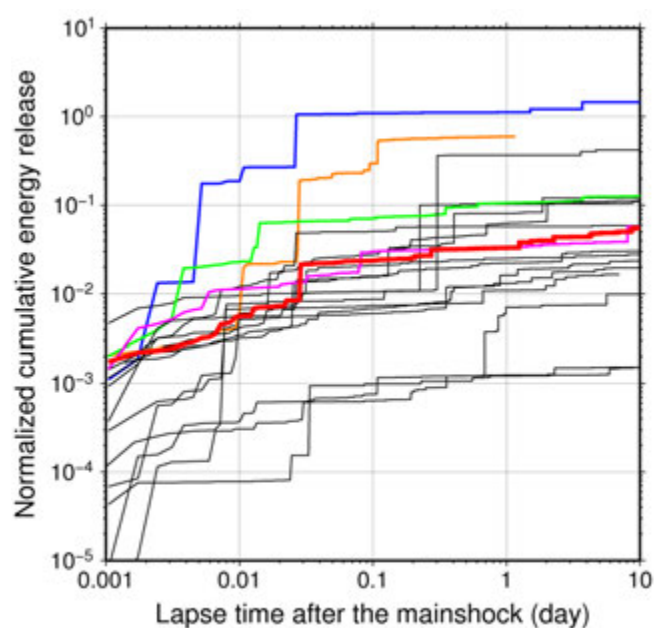
令和8年熊本地震による高周波エネルギー輻射量

高周波エネルギー輻射量からみる余震活動の特徴

- Hi-net(一部 KiK-net)の3成分合成地震波形エンベロップから、7月28日に発生した熊本地震 ($M_J7.1$) 後10日間の高周波エネルギー輻射量 (4~20Hz) を、Sawazaki et al. (2016)の方法で推定
 - ➔ 地震活動が活発なために震源カタログが不完全な状況でも、余震活動度をモニタリング可能
- 平成28年熊本地震の最大前震後および本震後と比べると、今回の地震の余震からの積算高周波エネルギー輻射量は少ない
- 地震発生から10日後の時点で、本震の高周波エネルギー輻射量に対する余震からの積算高周波エネルギー輻射量の割合は5.6%。地殻内地震としては平均的な値 (第2図参照)



第1図 令和8年熊本地震 ($M_J7.1$) 発生 of 1分後から10日後までの高周波エネルギー輻射量の積算値。平成28年の熊本地震 (最大前震と本震) 後の推移と合わせて示す。



第2図 日本で発生した過去の主な地殻内地震と令和8年熊本地震 (赤線) による、本震の高周波エネルギー輻射量に対する余震からの積算高周波エネルギー輻射量の割合の推移。